

## 現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和5年11月

### （1）与論さといも疫病対策の改善が進む～第2回疫病対策アンケート～

10月31日、与論島でさといも栽培講習会が開催され、生産者、関係機関41人が参加しました。昨年度、初めてのさといも疫病対策アンケート調査を全戸で実施し、疫病の発生が少ない農家と多発農家の栽培管理状況をデータで示しました。今年度も改編した対策アンケート調査を実施した結果、多くの点で改善が進み、疫病による芋腐敗ゼロ率は前年から33ポイント向上しました。次年度は、与論版さといも疫病対策IPM防除体系等の対策マニュアルの実施により、増収への期待が高まっています。



### （2）与論町4Hクラブ産「蜂蜜」は与論マラソンでも大人気

11月18日、4年ぶりに開催された与論マラソン（前夜祭）で、与論町4Hクラブが共同プロジェクト「養蜂」の成果品である「蜂蜜」を販売しました。今年の販売は6月に引き続き2度目で、1本240g入り1,500円で販売し、準備した100本を完売しました。令和3年度から与論島地域特産品の創出を目指し、試行錯誤を重ねながら取り組んできた「与論島産百花蜜」。年を追うごとに心待ちにしている島民も多くなり、クラブ員の活動参加率も向上しており、今後の展開が期待されます。



### （3）知名町地域計画作成に向けた話し合いが全集落で始まる

知名町の地域計画策定のため、10月27日から11月13日にかけて、町内14集落で10年後の集落の農業の方向性についての話し合いが行われました。比較的若い農業者が多く、遊休農地がほとんどない現状をふまえ、農業形態は現状維持で、集落内の農地は集落の農業者が耕作することを基本に、高齢化等でリタイヤする農業者は農地バンクに貸し付けるべきとの意見が多くを占めました。農業普及課では、地域の意向を反映した地域計画作成に向けて、今後も話し合い活動の支援を行っていきます。

#### (4) 与論町トルコギキョウの栽培実態調査

11月21～22日、与論町で園振協本部（フラワーセンター、経済連）、与論町、JAあまみ与論と連携して、管内トルコギキョウの栽培体系表や品種の収益性表を作成するため、トルコギキョウ栽培方法や定植本数を実態調査しました。調査の結果、各生産者ごとに栽培方法は異なるが、アザミウマ加害やチップバーン（花飛び）の対策が共通課題として挙げられました。今後も実態調査を行いながら、地域のトルコギキョウ栽培のマニュアル化を目指します。



#### (5) 現地就農トレーナー研修会でソリダゴ生産者が輸出対策を学ぶ

11月9日、与論町中央公民館で、指導農業士会主催のソリダゴ研修会を開催しました。沖永良部の輸送方法の取組として出荷箱の変更（ソリダゴやクルクマの湿式縦箱輸送から乾式横箱輸送への転換）、出荷規格の変更（スプレーギクやソリダゴの切花長を10cm短くした70cm規格への転換）、鮮度保持シートの導入（ソリダゴや夏秋スプレーギク）等を紹介しました。物流の2024年問題も迫り、輸送コストや鮮度維持に関して関心が高かったです。今後も、現場のニーズにあった研修会を実施します。



#### (6) 市場とテッポウユリ八重品種「咲八姫」の販売対策を検討

11月7日、沖永良部花き専門農協でテッポウユリ「咲八姫」の販売対策会議（Webハイブリット）を開催し、市場、沖永良部の生産者及び県内の関係機関27人が参加しました。沖永良部では、定植球数が約36,000球で前年の約2倍に拡大し、出荷時期は3月下旬～4月出しの予定です。また、仲卸業者、県外事務所と連携した効果的なプロモーション活動や販売単価、出荷規格について、市場も含め意見交換を行いました。今後、関係者と連携して生産・PRを支援していきます。

#### (7) 農総センターや農業機械メーカーで機械化による農業技術を学ぶ

11月17～18日、和泊町の花き生産者や関係機関が、県内研究機関やメーカーを訪問し、環境にやさしく省力化できる農業機械を情報収集しました。農業開発総合センターでは、ロボットトラクタの利用技術開発等の取組を、南薩地域の農業機械メーカーでは、少量農薬散布が特長の乗用型茶園防除機等の情報を収集しました。また、その他の花き農業機械についても、活発な意見交換を行いました。管内では、無線式小型耕うん機の実証に取り組む等、省力化技術のニーズが高まっており、これらの技術導入に向け、引き続き支援します。



#### (8) 畑かん営農推進大会を開催

11月15日、知名町フローラル館で県主催の畑かん営農推進大会を開催し、島外を含む農業者や関係機関・団体の約160人が参加しました。推進大会では、沖永良部で勤務経験のある普及員〇日の中木場氏が、これまでの経験に基づく畑かん営農推進の手法や、畑かん利用効果等について講演を行いました。その後、畑かんマイスターの大勝氏が、さといもでの水利用効果の紹介や、えらぶゆり栽培にかける思いなど事例発表を行いました。今回を契機として、さらなる畑かん営農の推進を図っていきます。

